

議会だより とのしよ



実りの秋  ~肥土山での稲刈り体験~

9月定例会を開催しました 2-4

委員会の活動報告 5-8

一般質問 (4人の議員が町政を問う!) 9-11

まちの元気印 (たんぼぼ朗読会) 12



中継拠点を整備

9月 定例会

9月定例会は9月18日に開会し、9月20日に閉会しました。補正予算3件、条例7件、財産の取得1件、人事案件15件、その他1件、平成30年度各会計決算認定、追加の補正予算1件が提出され、議案は各常任委員会審議を経て、全議案を可決しました。決算認定については、決算特別委員会を設置し、付託しました。

補正予算の主な内容

災害対策費 (災害対策事業)
ドローン飛行中継拠点整備のための設計委託



656万円

1,553万円

体育施設費 (体育施設維持管理費)
総合会館空調設備の修繕など



条例の制定・一部改正

- ◇消費税率及び地方消費税の改定に伴う関係条例の整理に関する条例
10月から消費税が10%に引き上げられることに伴い、各種使用料等の額を定める規定等を改めるもの。
- ◇印鑑条例の一部を改正する条例
旧姓による印鑑登録を行うことができるようにするためのもの。
- ◇特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
10月からの幼児教育・保育の無償化に伴う内閣府令の改正に伴い改正するもの。

◇消防団の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例
成年被後見人等に対する消防団員の任免に関する、欠格条項を削除する。また、その他所要の規定を整備するもの。

財産の取得

- 〈取得財産〉
デスクトップ本体、液晶ディスプレイ80台
〈契約の方法〉
随意契約
〈取得価格〉
603万円
〈契約の相手方〉
(有信和機器商会)

人事案件

- ◇人権擁護委員候補者の推薦
前委員の任期満了に伴い委員として推薦することについて、適任とする。
- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 佐々木明美氏(新任)
(61歳・肥土山) | 岡崎 義輝氏(再任)
(59歳・家浦) |
| 末長 顕悟氏(再任)
(70歳・伊喜末) | 中野 博喜氏(再任)
(80歳・向町) |
| 濱中 紀仁氏(再任)
(70歳・滝宮) | 石井 正樹氏(再任)
(70歳・滝宮) |
| 森 和志氏(再任)
(64歳・馬越) | 西崎 幸人氏(新任)
(64歳・笠滝) |
| 田中 保久氏(新任)
(67歳・見目) | 佐伯 敏雄氏(再任)
(70歳・肥土山) |
| 三村 康氏(再任)
(70歳・肥土山) | 中村 邦和氏(新任)
(69歳・淵崎) |
| 森田 嗣洋氏(再任)
(72歳・北山) | 森田 哲也氏(再任)
(52歳・鹿島) |
| 谷 忠敏氏(新任)
(68歳・小瀬) | 中黒 哲也氏(再任)
(52歳・鹿島) |

◇農業委員会委員の任命
前委員の任期満了に伴い委員の任命に同意。

災害に強いネットワークの構築のために ドローン飛行の

賛否割れる
賛成9、反対3
討論は4ページへ
事業内容は7ページへ

付託審査での主な質疑

消防団AED購入

《高橋》消防団の備品でAEDを購入するが、一般の人も緊急時に利用できるか。

《答》消防車に常時積載するもので、一般の方が使うことは考えてない。

《高橋》一般の人も使えるように検討してほしい。

パワーボート世界大会

《福本達》誘致は日本パワーボートレース協会任せか。

《答》窓口は、パワーボートレース協会になる。町は、後方支援としてサポートする。

《茂木》大部地区の住民への周知はどの程度行っているか。

《答》自治会役員に対して行った。

中国における「香川小豆島」の商標登録

《濱野》異議が認められない場合、次の手段はあるのか。

《答》弁護士の見解では、異議が認められる可能性が高いと伺っている。異議が認められなければ裁判になる。

旧土庄高校体育館

《濱野》体育館を借りるが駐車場部分は。

《答》最低限必要な部分を借りる。

請願

◇「所得税法第56条の廃止」の意見書採択を求める請願

請願者

小豆島民主商工会

婦人部部長 岡本佐智子

紹介議員

福本 耕太
鈴木 美香

本会議での主な質疑

ドローン実証事業

《福本耕》ドローンの運用がされなかった場合、その太陽光発電・蓄電池は町が使えるが、町が支出する4千万円の電力を生み出すのに何年かかるか。

《答》4、5年と考える。使用年数は15年から20年と聞いている。

《福本耕》議論が不十分。

話が住民に全然伝わっていない。町長から突発的に話が出て、進めていくやり方は理解されていると思うか。

《答》されると思う。

趣旨

所得税法第56条は、事業者の配偶者や親族が事業に従事した場合の対価の支払いを、必要経費に算入しないこととしており、家族従事者の社会的・経済的自立の妨げや中小事業者の後継者不足に拍車をかけている。

税法上、青色申告にすれば給料を経費にすることができるとは、同じ労働に対し、申告方法で差をつける制度は矛盾しており、基本的な人権を侵害している。国に対し、所得税法第56条を廃止することを求める意見書を提出することを求める。

討論

反対 高橋議員

白色申告でも青色申告と同様に家族従事者の自家労賃を必要経費として認めるのであれば、白色申告にその根拠となる書類の提出などが課せられ、白色申告の手続きが

煩雑になる恐れがある。また、56条を廃止しただけでは自家労賃を青色申告並みに認めることにはならず、57条や所得税法全体の見直しの中で議論、整理が必要と考えるため反対する。

賛成 福本議員

56条で白色申告を行う世帯の配偶者やその家族の労賃、労働を認めないところに法的な欠陥がある。明治時代からの家父長制度を引き継ぎ、法的な欠陥があることが大きな問題となっている。

当然、57条の見直しも56条の廃止を踏まえた上で行われるべき議論である。現場で働いている従事者にとっては、この56条の差別的な制度が非常に心を痛め、傷つけている制度になっている。この点からは、まず56条を廃止することが、57条の見直しへ繋がる。

9月定例会の審議結果と賛否

賛否の分かれた議案

議案等	結果	茂木	鈴木	福本	三木	岡野	岡本	高橋	福本	川本	井上	木場	濱野
令和元年度土庄町一般会計補正予算（第2号）	可決	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○	—
消費税率及び地方消費税率の改定に伴う関係条例の整理に関する条例	可決	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○	—
土庄町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	可決	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○	—
「所得税法第56条の廃止」の意見書採択を求める請願	不採択	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	—
令和元年度土庄町一般会計補正予算（第3号）	可決	×	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○	—

○：賛成 ×：反対 —：議長（議長は採決に加わりません）

全員賛成の議案

議案の内容	結果	議案の内容	結果
令和元年度土庄町港湾整備事業特別会計補正予算（第1号）	可決	土庄町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部	可決
令和元年度土庄町介護保険事業特別会計補正予算（第1号）	可決	土庄町消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例	可決
土庄町辺地に係る総合整備計画の変更について	可決	財産の取得について	可決
土庄町印鑑条例の一部を改正する条例	可決	土庄町農業委員会の委員の任命について（全14件）	同意
地方公務員法の一部改正に伴う関係条例の整理に関する条例	可決	人権擁護委員候補者の推薦について	適任
土庄町災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例	可決		

賛成 木場議員
委員会で報告受け、審議した結果、適当であると判断した。

賛成 三木議員
国の上位法の改正に伴う条例の改正である。現在の町の財政状況を鑑み、た上で賛成。

賛成 岡本議員
有事の際は、町民の目となり足となるのが確保できるとの説明を受けており賛成。

反対 鈴木議員
パワーボートについて、小豆島の観光の方向性としてお金が落ちればいいという価値観だけではダメ。世界大会は規模が大きすぎ、小豆島のイメージにそぐわない。

反対 福本議員
保護者に副食費を負担させることを前提とした条例の改正である。名ばかりの保育無償化を国民に促す条例の改正は認められない。

反対 福本議員
また、この時期に4千万円の支出を1人で平然と決めてしまうことは議会軽視である。一方的に進めるやり方は絶対に認められない。

反対 福本議員
屋外喫煙所の設置について、今日の公共施設では、敷地内禁煙というのが主流になってきている。敷地内に屋外喫煙室を設置しても撤去を求められるのはそんなに遠い未来ではないだろう。住民の切実な暮らしの願いを実施せず、喫煙所を設置するのに140万円は、税金の使い方、優先順位から見ても間違っている。

賛成 岡野議員
10月1日からの消費増税による条例の改正は必要である。

賛成 岡野議員
特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

反対 福本議員
消費税率及び地方消費税率の改定に伴う関係条例の整理に関する条例

反対 鈴木議員
財政難の中、町の負担を4千万円もかけてローンの実証実験に参入するのは疑問である。そのお金があるなら、保育の食材費に振り替えるなどのほうが町民のためになる。

反対 福本議員
ドローンの実証実験については、住民に説明されていないことが、住民に理解されるといふ町長の考え方に大きな不安を抱える。

一般会計補正予算（第2号）

一般会計補正予算（第3号）

教育民生常任委員会

(7/29)

教育 総務 課

大鐸・北浦・四海こども園の視察

大鐸こども園の園庭には、平成6年に保護者により製作された木製遊具があり、修繕しながら使用していたが、遊具の検査で支柱が腐食していることが分かり、撤去を含めた対応を検討しているとのことであった。

北浦こども園の園庭には、大正天皇即位を記念した背の高い石碑があり、倒壊した場合の危険を考え、対応が必要とのことであった。

《福本耕》石碑の移設を協議したことはあるか。
《答》協議したことはあるが、移設場所や費用などの課題がある。

《濱野》移設か柵の設置のどちらかになるだろうが、費用等を考えたら柵の設置が現実的であると思う。

四海こども園は、全体的に老朽化しているとのことである。

新園舎への建て替えを含め、修繕の要望書が提出されている。

《福本耕》新築するとしてらいつ頃か。

《答》地域との話し合いで建設場所を選定し、その後実施設計、建築の順番となる。

《福本耕》新築までの間に事故が起きそうな場合はその都度修繕していくのか。

《答》そうである。例えば軒のコンクリートが剥離している状況などは定期的に見ていく。



視察状況(大鐸こども園の木製遊具)

総務建設常任委員会

(9/4)

商工 観光 課

パワーボートレース世界大会

過去3回、日本パワーボートレース協会の主催により、日本グランプリを大部地区で行った。協会から海洋資源を使った地域活性化のため、2021年のパワーボートレース世界大会に、小豆島を開催地として立候補したいと申し出があった。開催されれば活性化に繋がると考えている。

《福本達》地元は、不安な面をたくさん持っているように感じる。地元への反応をどう認識しているか。

《答》地元には迷惑がかかるのなら、改善してほしいと聞いている。町の活性化、地元の活性化については大方の了解は得ていると認識している。



大部沖で開催されたパワーボートレース

プレミアム商品券

対象者は、非課税の方と3歳以下の子どもがいる世帯になる。9月中旬頃までに購入対象者へ商品券購入引換券を送付する。10月1日から商品券の販売、利用が開始される。1人最大2万5千円分の商品券を2万円で購入できる。

《福本達》中国における『香川小豆島の商標登録』、「近畿日本ツーリストとの包括連携協定」の説明があった。

農林水産 課 企画 課

次世代産業育成モデル事業進捗状況

離島甲子園

栽培したベビーリーフとエディブルフラワーを8月27日より池田港の産直市場で市場調査を兼ねた販売をしている。

工場の民間展開については、郡内14社の企業回りをし、7月5日には交流会を行い、意見交換会も行った。今後9月下旬から利用希望者を公募する。利用者は、賃借料の他に、利用者負担として電気代などの維持経費や理化学研究所への研究委託料などを払っていたこととなる。

《茂木》公募する団体の数は。

《答》1団体である。



プレミアム商品券

正式には「国土交通大臣杯全国離島交流中学生野球大会」と言い、離島に在住、もしくは所在する中学校に在籍するものが参加対象である。平成20年に第1回大会が開催され、今年度は8月19日から23日まで長崎県対馬市で第12回大会が開催された。来年度の第13回大会は土庄町で開催が予定されている。

《濱野》今回開催町として参加するだけではなく、今後も継続して参加していくという認識で良いのか。

《答》地元を大会と呼び込んで、次回からは不参加というのではないと思う。続くものと考えている。

《福本達》「グランウドデザイン」の進捗の説明があった。

建設課

土庄港思いやり駐車場

現在、土庄港周辺の思いやり駐車場は、全体で12区画整備されている。今後土庄港務所前のスペースを新たに整備する計画である。

《茂木》配慮の必要がある方への周知の仕方はどうしているか。どのタイミングで知ることができるか。

《答》利用者の登録は、香川県小豆総合事務所で受付している。今後、利用に関する周知を関係課と共に周知していきたいと思っている。実際のところ、土庄港駐車場においては周知できていなかったと思う。

かがわ思いやり駐車場制度
障害者等用駐車場を適正に利用させるため、障害のある方や要介護認定を受けた高齢者、妊産婦など移動に配慮が必要な方に、県が「かがわ思いやり駐車場利用証」を交付することにより、不適切な駐車を解消し、障害のある方等に配慮した環境づくりを推進するもの。



新たに思いやり駐車場を整備する土庄港務所前の駐車場

教育民生常任委員会 (9/4)

教育総務課

保育料の無償化

消費税率引き上げにあわせて10月1日から保育料の無償化を実施する。対象者は、保育所、認定こども園を利用する3歳から5歳児で、0、1、2歳児は、原則現行どおりである。

食材料費については、主食費（ごはん代）は以前から徴収していたが、副食費（おかず代やおやつ代）は、今回から徴収する。ただし、制度開始前より負担が増えることのないように免除制度を設ける。

こども園の施設整備

7月29日教育民生常任委員会の視察時に各園から要望のあった施設整備の対応を検討した。

大鐔こども園の木製遊具は、来年度予算要望し、撤去する。

北浦こども園の園庭側道側にある記念碑は、自治会との協議の結果、移設撤去は難しいとのこと。柵を設置し、園児が近寄れないよう安全対策をする。

四海こども園の園舎老朽化による危険は、保護者等から要望のあった修繕は順次実施している。園児の命に関わるような修繕が生じた場合は、その都度対応する。また、園舎の建て替えは、四海地区から要望書が提出されている。

《福本耕》北浦こども園の記念碑の周りに柵を設置することだが、どのような柵をイメージしているのか。
《答》まだ具体的な案はない。自治会とも協議が必要と考えている。

生涯学習課

放課後子ども教室

昨年12月の委員会で、放課後子ども教室の土庄教室、洲崎教室を土庄こども園開園に伴い、閉園予定である洲崎幼稚園の跡地に移転することを計画しているとの説明した。

しかし、その後移転予定先の洲崎幼稚園の園舎が、土砂災害危険区域内にあるということが判明した。それを踏まえ、洲崎幼稚園跡地は利用不可能という状況になっており、再検討が必要となっている。

当分の間は、土庄教室（中央公民館2階和室）・洲崎教室（旧中央図書館）とも現在の場所で行う予定である。

《濱野》調査不足は否めない。旧図書館は土砂災害危険区域には入らないのか。
《答》全く入らないというわけではないので、早急に方針を考えないといけない。



放課後子ども教室洲崎教室を行っている旧図書館

小豆島スポーツテニス

平成29年7月1日に設立した土庄町総合型地域スポーツクラブ「小豆島スポーツテニス」は、7月9日付けで法人登記を完了し、一般社団法人小豆島スポーツテニスとして新たに出発することになった。

事務所は、高見山公園テニスコート管理棟事務所をクラブハウスとすることで決定している。

《福本耕》法人化となれば、町からの予算ではなく、独自で運営していくのか。
《答》運動教室等の委託事業として支出することはあるが、人件費等は支出不しい。

総合会館の空調設備

大ホールの空調設備は、吸収冷温水機2台を使って冷暖房を行っている。このうち、1号機が6月16日、運転中に自動停止した。消耗部品の老朽化であることが判明し、一時的な処置により、使用者に迷惑がからないようにしているが、抜本的な解決ではなく、設備の分解修繕をする予定である。

《岡野》町の施設が老朽化している部分が重なっている。生涯学習施設の中で、もう使用限度を超えているだろうという部分を精査して、予定を組んでいただきたい。

《答》老朽化しており、色々な不備が出ている状況である。精査していきたい。

その他「旧土庄高校体育館及び上庄第2運動場の使用貸借」の説明があった。

住民環境課

土庄町(小江) 一般廃棄物最終処分場の現状とごみ減量化推進事業

小江の最終処分場の埋立残容量は、非常に厳しい状況となつているため、今年1月からごみ減量化推進事業に取り組んできた。燃えないごみの中に、燃えるごみ、資源ごみが混じっている。これらのごみを手選別により、仕分けをして、減量化を図っている。



燃えないごみの中には空き缶やペットボトルが混ざっている

今後、ごみの減量化・資源化について、町民の方のご協力をいただくために広報紙などで、周知を行っていききたい。

《鈴木》海岸に散乱しているペットボトルも資源ごみになるのか。

《答》汚れていないものは資源ごみになるが、汚れているものは燃えないごみになる。

《福本耕》どう分けたら良いか、細かい部分がないか、細かい部分がある。収集場所に、看板等を設置して、ごみの出し方を周知してもらいたい。

《答》現在の分別の仕分け表では分からないという意見があるので、見直しを考えている。

《岡野》減量化推進事業によってごみが減っている。町民の意識の無さがある。これを町民にどう周知するか。できるだけ多くの場所で行うという状況であるということを広めてもらいたい。

《答》小学校の環境学習の授業で、担当が学校へ出向き、ごみの資源化、分別減量化の出前講座をすることが予定されている。

《三木》資源ごみの収集が月に1回しかない。収集日を増やす予定はあるのか。

《答》資源ごみの収集を月2回にできないか、業務の身を精査しながら検討している。

その他福祉課から「災害弔慰金の支給等について」の説明があった。

総務建設常任委員会 (9/12)

総務課

旧土庄高校跡地

香川県は、令和3年3月末までに全ての建物の解体、もしくは所有権の移転を考えている。耐震性のある3号館、体育館は、町で利用目的があれば無償譲渡することである。香川県からは、町の方針を9月末までに出してほしいと言われている。

現在、3号館の利活用案を各課に依頼している。



旧土庄高校3号館

《川本》県への回答期限をもう少し延ばすことは可能なのか。

《答》方針が決まらない場合は、県へ期限の延期を申し入れようと思っ

ホームページのリニューアル

現在のホームページは、開設以降6年が経過している。その間に、芸術祭等で町を訪れる外国人も増えてきたが、町のホームページは外国語への対応ができていない。

また、年齢的・身体的条件に関わらず、提供されている情報にアクセスし、利用できるように配慮する必要もある。今回のリニューアル

庁舎建設事業

は、多言語対応や高齢者等が使いやすい構成、災害時には画像などを排除してアクセス集中となつてもホームページを閲覧できる環境を構築する。

離島地域でのドローンによる災害に強いネットワークづくり

中山間地域や離島地域等では、輸送コストの上昇や働き手不足により経路維持が今後困難になつていくことが予想され、それが人口流出・過疎化につながる懸念されている。

また災害時には交通手段の分断等により地域の孤立化が問題となつていることから、ドローンを活用して物流ネットワークを構築するための実証事業を行うとするものである。

町で実証事業を行うために、ドローンの拠点として太陽光発電と蓄電池を町内5カ所に整備する。ドローンの運航・運営は、民間の運航事業者が行う予定である。

その他「消防団運営事業」、「損害賠償請求事件」の説明があった。

《高橋》地元産木材を使う場合、なぜ高いのか。

《答》難燃・不燃の加工が島内ではできないため費用がかかる。

《茂木》断熱と節電に関する状況は。

《答》窓面はペアガラスにし、太陽高度を検証し、方角によってひさしやルーバーで日差しを遮る。最大限効率が良い庁舎を目指している。

総務建設常任委員会
(10/11)

商工観光課
農林水産課
建設課
観光振興事業

土庄町は、最近瀬戸芸や石の島の日本遺産認定で、認知度も大きく向上している。その効果から、平成30年度エンジェルロードの来場者数は、25万人を超えた。

一方で、エンジェルロードには多くの観光客を受け入れるだけの駐車場が不足しており、来訪者が不便であるだけでなく、隣接道路の渋滞は、地域住民の日常生活に支障をきたしていることから課題解消に向けた協議を行っている。

そこで、エンジェルロードに隣接する王子前漁港を埋め立て、駐車場を造る案があるが、埋め立てると漁業施設の物場場がなくなるので、代替施設を造る必要がある。

《高橋》エンジェルロード

ドの来場者は年々増えているが、観光シーズンだけの話であって、既存の土地を活用することを考えた方がよい。観光ルートとして土洩海峡、迷路のまち、エンジェルロードというルートで歩かせようが、町が潤い、賑わうための1つの手立てになるのではないかと。

《茂木》渋滞があるのと駐車場が必要だということとは繋がるものではない。渋滞解消には、車を遠くに置いてもらって、シャトルバスでピストン輸送するほうが良いのではないかと思う。

《濱野》駐車場を造っても、干潮時に車が集中すれば、逆に交通渋滞を起しかねない。



混雑するエンジェルロード駐車場

決算特別委員会を設置

一般会計、各特別会計の平成30年度決算がましまり、監査委員の意見を添えて提出された。決算認定については、決算特別委員会を設置し、閉会中に継続審査することとなった。

- 委員長 茂木邦夫
副委員長 三木俊明
委員 鈴木美香
福本達雄
福本耕太
木場隆司
濱野良一

議会活性化 特別委員会を設置

住民の代表機関として、政策立案機能、監視機能などの充実・強化を図るとともに、議会の透明性の確保及び住民に開かれ、信頼される議会を目指し、その方策を調査、検討する。

- 委員長 高橋正博
副委員長 岡野能之
委員 茂木邦夫
三木俊明
岡本経治
濱野良一

【監査委員の意見】

○一般会計

債権管理室を中心に、各課が連携し、税だけでなく、手数料などの他の債権もここ数年減少しており、効果が見えてきている。これに満足せず、さらに適切で、公正な徴収事務を行い、徴収率の向上につなげていただきたい。

○農業集落排水事業

使用料収入が決算額の約16%、一般会計繰入金が約84%という状況である。使用料の改定を含め経営改善の必要がある。

○宅地造成事業

王子前埋立分譲地の残り5区画の売却について、最終売却から10年を経過することもあり、価格の値下げなど積極的な動きを。

議会の動き

(令和元年 7月23日～ 10月20日)

- 【7月】**
29日 教育民生常任委員会 (こども園視察)
31日 小豆郡町議会議長会研修会
- 【8月】**
16日 香川県広報発行町議会連絡協議会定例会及び研修会
23日 全員協議会
- 【9月】**
4日 総務建設常任委員会
// 教育民生常任委員会

- 【9月】**
4日 全員協議会
12日 総務建設常任委員会
// 議会運営委員会
18日 9月定例会本会議
// 総務建設常任委員会
// 教育民生常任委員会
// 議会運営委員会
20日 9月定例会本会議
// 全員協議会
24日 小豆島中央病院企業団議会

- 【9月】**
27日 小豆広域行政事務組合議会
- 【10月】**
8日 決算特別委員会
9日 決算特別委員会
10日 決算特別委員会
11日 総務建設常任委員会
// 議会広報特別委員会
16日 四国地区町村議会議長会研修会

議員が 町政を問う



9月定例会では、4人の議員が一般質問を行いました。
全文記録(会議録)は、土庄町ホームページに掲載していますので、ご覧ください。



QR code

質問議員	質問事項
鈴木美香	○観光協会について ○ベビー用品レンタルの再開は ○ごみ問題について
茂木邦夫	○ホームページリニューアル事業について ○ごみ分別について ○シティプロモーションについて ○子育て環境について
岡本経治	○健康増進法の改正について ○町長の県外出張について ○町長の組織作りについて
福本耕太	○加齢性難聴者の補聴器購入に助成を ○本当の「幼児教育・保育の無償化」の実現を ○訪問入浴車の老朽化について改善を

観光協会について

鈴木 現在、小豆島観光協会、小豆島とのしょう観光協会、小豆島町観光協議会と3つの組織があるが、それぞれ年間土庄町からいくらか支出しているか。こんな小さな島でばらばらに活動するより、まとまって企画した方が効率が良いと思うがどうか。観光客にとっても窓口が複数あるのは混乱して分かりにくいと思う。町から支出しているのであればなにか指導はできないか。



鈴木美香 議員

商工観光課長 平成30年度は、小豆島観光協会に負担金として500万円、小豆島とのしょう観光協会には町事業に対する委託料として約867万円を支出。小豆島町観光

協議会には支出なし。それぞれの団体が目的に応じて事業を展開している。独立の団体であるので、町が指導できるものではないとの認識である。

鈴木 税金を使っているのであれば、その検証はどうしているか。

商工観光課長 負担金を支出している立場から、無駄がないか予算執行状況や決算書類などを精査している。

ベビー用品レンタルの再開は

鈴木 子育て支援センターの閉所によりベビー用品のレンタルが終了したが、レンタルの希望の声がある。どうして取りやめになったのか。貸出品目や貸出頻度は、年間の必要経費、今後の再開の可能性を聞く。

教育総務課長 不要になり寄付されたベビーベッドやチャイルドシートを再利用し、無償で貸出業務を行っていたが、年間

の貸出頻度が3、4件と少なく、また収納や管理の観点から業務を終了した。また、使用していたベビー用品は引き取り処分したことから再開するには、新たにベビー用品を準備する必要がある。現状では再開は困難。

チャイルドシートは、土庄交番内にある土庄交通安全協会で貸し出ししているので周知をしていきたい。

ごみ問題について

鈴木 本当に待ったなしの現状だ。今まで燃えないごみだった金属、割れガラス等を資源ごみに分類するなど、徹底的に分別できないか。ペットボトルを減らすために役場からお手本となるようウォーターサーバーの設置やレジ袋を極力使わない等の行動を。レジ袋削減のため業者との話し合いも必要だ。町もこの現状をきっかけにプラスチックごみゼロ宣言の方向性を目指せないか。

住民環境課長 燃えない

ごみは、手選別で混入している燃えるごみ、資源ごみを取り除き、減量化することで処分場の延命を図っている。また、分別品目を細分化し、リサイクル可能なものはリサイクルし、少しでも埋め立てるごみを減量化することが大切である。また、リデュース、リユースにも取り組む必要がある。ごみをどう処理するのではなく、ごみを出さないようにして、どう減らすのかという考え方に変わっていかねばと思う。

鈴木 プラスチックごみゼロ宣言という方向での考えはないか。

町長 できるだけ減量に向けてやっていく。中間処理施設を造る予定があり、ごみの減量化に繋がる。





茂木邦夫 議員

ホームページ（HP）のリニューアルについて

茂木 なぜ当初予算2500万円もの費用がかかるのか。説明を。

総務課長 構築費用が約1100万円、保守運用費用が年間約136万円となる。今年度リニューアル予定の小豆島町は、見積限度額が約1000万円、三豊市が約700万円である。町のHPは、サイト設計以外に改ざん防止のためのセキュリティ、現行HPからのページの移行、職員の操作研修、データセンターでの安定運用等の必要があり、地方公共団体のサイト構築運用実績のある事業者を選定した。

茂木 観光協会のHPがある中で、わざわざ多言

語化する必要はないのでは。

総務課長 1カ月で3000人の外国人が町のHPを訪れている。小豆島には外国人の方も生活しており、多言語対応を考えている。

茂木 災害時にこのページはどう機能するか。

総務課長 災害時の専用ページへの移行、緊急情報の自動掲載など効果的に情報発信ができるリニューアルにしたい。

茂木 千葉や九州の豪雨など災害が多い。ハード面だけでなく、ソフト面の対策を。



現在のホームページトップ画面



岡本経治 議員

健康増進法の改正について

岡本 望まない受動喫煙により健康に影響のある子ども、患者等に特に配慮するために、施設ごとに対策を実施することになった。町の対応、また町民への周知・啓発は。

健康増進課長 今年7月に学校・病院・庁舎等が原則敷地内禁煙になった。庁舎には、法律に従い特定屋外喫煙所を設置している。周知・啓発は、公共施設には、受動喫煙防止のポスターを掲示し、町広報紙では世界禁煙デー及び受動喫煙防止の記事を掲載している。

岡本 たばこ税が、年間約1億円ある。財源の一部で、各施設に喫煙室を設置したり、また子ども、

お年寄りが憩える公園など目に見える、住民の喜ぶ施設を造ることはできないか。

企画課長 公園については、子育て世代からも要望があるので、グラウンドデザインの検討していく。

町長の県外出張について

岡本 町の施策実施における費用対効果はどうなっているのか。

企画課長 県外で開催される会議などへの出席、また関係省庁への働きかけを行うための出張も積極的にやっている。費用対効果は、具体的な数値を示すことは難しいが、町長自ら関係省庁に出向き、省庁の方々と直接面会し交渉することにより、国の予算の確保や補助事業の採択などに、一定の効果があつたと認識している。東京への出張は、1回あたり約6万円である。

岡本 月に3回行った

ら、18万。年間216万。この経費は、当然税金から出ている。債権管理室も年間約2300万円回収している。税金を使っているのだから、費用対効果を見据えて仕事をしたい。町

の予算は約90億円で、そのうち約18%を町税で賄っている。湯水のごとくお金を使っているとは言わないが、町長がしっかりと行動すれば、町民も納得するのではないか。

町長の組織作りについて

岡本 令和元年6月14日、土庄町告示第45号で設置された土庄町施設整備推進会議は、どのような目的で設置されたのか。

町長 所管する事項は、観光振興事業、環境衛生事業、教育関係事業についてである。執行部でなかなか話ができないことを、この土庄町施設整備推進会議で検討する。その意見を執行部で協議、それを議会に出すという流れである。私自身の諮

問

問 機関として設置した。執行部の下の組織である。

岡本 前年度、財団も作り相談する機関がたくさんある中、人数が少ない職員の手を借りながら、わざわざ公文書を使い、住所、氏名も分からない町長独自の新しい機関を作る必要があるのか。

町長 職員の間で検討し結論が出ないものを、施設整備推進会議に検討をお願いし意見を吸い上げ、執行部の中で協議し、議会へ報告する。

岡本 執行部は、行政のプロフェッショナルが集まった組織である。課長、職員は、素晴らしい逸材の集まりである。町長は執行部を信用していないのか。任せるといっても大事ではないのか。

議会も全面的に協力できるような職員の業務に支障が出ないように執行部と意思の疎通を図り、町民の喜ぶ目に見える施策を町長自ら行っていたきたい。

ごみ分別について

茂木 燃えないごみの減量化は必須であり、ごみ分別に住民や自治会の協力が不可欠だ。徳島県上勝町では「ゼロ・ウェイスト宣言」を掲げている。今後の対策は。

住民環境課長 項目別の分別表など、分かりやすい表現での周知が必要だと考えている。先進自治体の事例を参考に、持続可能な循環型社会を目指していきたい。

シティプロモーションについて

茂木 民間においてSNSの写真や文章を通して、地域の魅力を発信している方が多い。民間の力を活用することが重要。プロモーション政策に関して方針を。全国的にも「シティプロモーション課」というものもある。

企画課長 町独自でSNSはまだ発信していない。

子育て環境について

茂木 小豆島町では「子育てガイドブック」がある。土庄町での作成計画の進捗状況は。また、モンテッソーリ教育、イェナプラン、森のようちえんなど、自由教育の実践も活発になってきている。小豆島・豊島の教育をどう打ち出していくのか。

企画課長 ガイドブックは、現役の子育て世帯や保育現場の方からの意見も取り入れていきたい。教育総務課長 今年度の町の教育方針テーマは、「自分の未来を切り拓く、視野が広く、スケールの大きい人間の育成」。主体的で対話的で深い学びができるよう、拓かれた、信頼される、魅力ある園、学校を作っていきたい。

茂木 少人数教育の良さもあるが、少人数であるが故に多様性がなく他の方と触れ合う時間が少ない。国土交通省で「離島留学制度」がある。制度活用の検討を

加齢性難聴者の補聴器購入に助成を

福本 聴力が規定以下で身体障害者の認定を受けた場合、障害者総合支援法により購入補助があるが、高齢者の加齢性難聴はほとんどの場合、規定に該当せず、多くの高齢者が高額な補聴器の購入に困難を抱えている。難聴になると会話が減少し、コミュニケーション障害や認知機能低下が起きる。厚労省も高齢者の引きこもりの原因の一つに聴力の低下を挙げており、対策を求めている。日本補聴器工業会の推計では難聴者の14.4%しか補聴器をつけておらず、理由の第一位が価格である。補聴器の価格は3万円から30万円以上するものも

あり、平均15万円と高額すぎる。現在、全国で約20自治体が補助を実施しているが、町はどう考えているか。

福祉課長 今後、他市町の動向を注視しながら研究していく。

本町の「幼児教育・保育の無償化」の実現を

福本 政府は、消費税増税による子育て世帯への負担軽減のため、保育料を無償化するとしているが、実際は無料になっていない。国は、これまで保育料に含まれていた副食費（おかず代やおやつ代）を保育料から取り出して有料にした。国負担から自治体・保育園負担にすり替え、自治体・保育園が独自で負担するか、保護者に負担させるか、自治体・保育園の判断に委ねた。これは、明らかに責任転嫁である。

被害者である町と住民が力を合わせて国の「ウソ」に立ち向かい、「本当の無償化」を実現するため日本共産党は2点の提

案をする。

①国に対し、公約を守り、国の負担責任で保育の無償化を実現するよう進言すること。

②丸亀市や三豊市のように国の負担責任を実現するまで、副食費を自治体が負担し、保護者に負担を求めない「本当の無償化」を実施すること。町長の考えを問う。

町長 ①は、四国57町村で一つにまとめたながら話を進めていくべき。教育総務課長 ②は、対象となる園児180名分、年間900万円の町費負担となり、慎重にならざるを得ない。

福本 町長として「責任果たせ」と国に言っべき。国の悪政から「弱い者いじめは許さない」と防波堤になるのが自治体の本来の役割である。

訪問入浴車の老朽化について改善を

福本 今後、高齢者の増加が見込まれる中で、訪問入浴サービスの安心、

安定的な供給は、大切なことである。現在の訪問入浴車は老朽化が著しい。利用者やその家族、業務に従事する職員に聞き取りを行った結果、入浴車自体がかなり古く、器具、機材も再三修繕しているが、もう限界にきている。新調を求める声も聞かれるが、今後の対策を問う。

健康増進課長 現在の訪問入浴車は、平成7年に24時間テレビから社会福祉協議会へ寄贈されたものを町が借り、平成14年から使用している。現在は3名の利用者が入浴車を利用している。訪問入浴サービスは必要不可欠と考えているが、新たな購入には約500万円が必要である。

福本 長い目で見れば、500万円は必要な投資と考えるが。

町長 前向きに検討すべきと思うが、利用者の数を注視したい。



福本耕太 議員

たんぽぽ朗読会



たんぽぽ朗読会の皆さん

今回は、町内の視覚障害者の方へ町広報紙などを朗読し、それを収録したテープを配布されているたんぽぽ朗読会の皆さんにご登場いただきます。

Q 活動の内容は。

A 月に2回集まって、土庄町広報や議会だより、県政「T H E かがわ」などを発行月に収録、ダビングし、録音テープを土庄町在住の3名の視覚障害のある方に郵送しています。

Q 活動を始めた時期ときっかけは。

A 高松で朗読の講習会を受講



録音風景

した人たちが集まって朗読の学習活動を行っていました。その中で何か役に立てることはないかと考え、目の不自由な方に本を読んで送ってあげたらどうかということ、昭和62年に発足しました。

Q メンバーは何人ですか。

A 11名で活動しています。

Q 活動を通して感じることは。

A 私たちは、広報紙などを朗読するためにしっかりと読みます。こういう活動をしていなかったら始めから終わりまでこんなに丁寧には読まなかったと思います。広報紙などには情報がたくさん詰まっています。

Q 活動で苦労されている点は。

A 挿し絵や写真の説明が難しいです。人によっては色の説明をしてほしいと言われる方もいます。いかに分かりやすく読むかを考えています。

また、メンバーの年齢が高くなっているのいつまで続けられるのか分らないですが、聞きたいという方もおられるのでできるだけ続けたいと思います。

Q 町や町議会への要望はありますか。

A 図書館の利用促進の一環として、読むことが不自由な方のコーナーを設けていただければと思います。そこに、たんぽぽ朗読会が参加できれば私たちのやりがいにも繋がります。

Q 今後の活動や目標は。

A 視覚障害の方だけではなく、高齢者などで目が見えにくくなっているような人にも貸し出せるように公共施設などにテープを置いてもらえたら、今月の広報を聞いてみようと思ってくれる人がいるかなと思います。

読みたいけれども読めないという人がいれば、土庄町社会福祉協議会（☎62-2700）までご連絡ください。



写真を説明するために原稿には説明が書かれている

優しく、温かく、また分かりやすい声で朗読をされています。

お話をしている中で、人名にはふりがながあったほうが良いなど参考になる意見をいただきました。読みやすい紙面づくりに取り組んでくれましたが、朗読しやすい紙面も意識して、今後の紙面づくりに取り組みたいと思います。

編集後記

台風19号でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、甚大な被害を受け、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

わが町では、平成16年の高潮災害以来、大きな災害はありませんが、自然災害は他人事ではありません。住民の皆様と共に防災意識を高めていかなければならないと考えております。

さて議会では、町が抱える諸問題の克服に向けて、正確な情報の発信と住民の皆様の意見が反映される町政を目指して、議会活性化特別委員会を設置しました。

今後は、読みやすく親しみやすい議会広報にするためにも、議員一人ひとりが目に見える活動をして参りますので、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

《三木俊明 記》